



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第10号)

2003年8月26日発行

近況のご報告

今年の夏は冷夏。裏庭で色づいていた鉢植えのトマトも雨にうたれてふるえていました。でも、やっと暑さがもどってきたのか、蝉がいっせいに鳴きはじめ、ひんやりと冷やしたスイカの甘みとみずみずしい口あたりが格別です。いま日本にきています。久子の長兄(川島家筆頭)の訃報がとどいたので、急遽、航空券を手に入れ帰国にふみきました。シカゴからだったので、滞空時間12時間で成田から実家(神奈川県海老名市)まで直行して、どうやら葬儀に間に合うことができました。いちおう49日をすませてから、9月中旬にシカゴにとんぼ返ります。

毎年恒例のハムフェアには、8月23日(土曜日)に出かけました。東京湾をのぞむ宇宙基地のようにそびえる東京ビッグサイト。国際展示場前駅の改札口を出て、真っ赤な太陽をいっぱい身体に浴びながら一路ハムフェア会場へ。西2ホール入口近くで大武暉伯さんとばったり会いました。大武さんは日本短波クラブ50周年のイベント推進役で、近くHCJB英語部のAllen Grahamさんの番組でもクラブ提供のDXニュースが放送されるようになったとよこんでいました。ブースでは白石晋一会長さんが早速席をつくってください、そこに立ち寄ってくださった30人近くの方たちと顔と顔をあわせて話し合い、握手し合うことができました。みじかい時間でしたが心のつながりを深めあう貴重なひとときでした。これからもこのようなヒューマン・コミュニケーションを大事にしていきたいと思っています。

「飛鳥」- 日本が世界に誇る大型客船(総トン数28,856GT、全長192.8m、全幅24.7m)が横浜港に入港するとき、大棧橋埠頭へ出向き待っていました。予定通り昼下がりの2時過ぎ、小さかった白い船体がへさきをこちらに向けて近づいてきました。そのうち甲板にならぶ人たちの姿がみえはじめ、出迎えの人々と手をふりあいながら豪華客船はゆっくりと接岸。そばでみると地上に建つ高層ビルディングのようですが目にみはりました。乗客の下船もおわり一段落したところで、こんどは市内バスに飛び乗って大黒埠頭を迂回しながら、スカイウォークへ先まわりしました。「飛鳥」が回航のため出航するはずなので、その瞬間をベイブリッジの主桁に設けられたドーム展望台から見下ろ



そうというわけです。スカイラウンジにあがるとパノラマ式の総ガラスの窓からは、眼下に行き交う出船入船が手にとるように見え、望遠鏡をのぞけば横浜港周辺や遠い山並みまで一望できます。しばらくすると予定通りに「飛鳥」が岸壁を離れるのが遠望できました。みるみるうちにスピードをあげてすべるように近づいていきます。とみる間にベイブリッジの真下にさしかかりました。桁下55メートルを白波をけたてて走り去る「飛鳥」の雄姿! 息をのむようだったといえはささか大げさでしょうか。私が工業高校造船科出身で船好きなのでゆるしてください。



1970年初頭、私は南米へ移住する人たちを同じ大棧橋で見送ったことがあります。その日、大棧橋は混雑していました。5色の紙テープを投げ交わして端と端をしっかりとぎりしめながら別れを惜しむ家族、国旗、校旗、大段幕をふる人々、応援歌で励ます学生グループ、それこそ棧橋はテープと人が混然としてあふれんばかりでした。出航を知らせるドラの音とともに船は静かに岸壁を離れました。デッキに身体をのりだして声をはりあげていた人たちの姿もちいさくなり、あとは大きく手を振るだけ。無情にも沖合でおおきく向きを変えた移住船はひたすら針路を南にとって長い航海に旅立っていきました。そのとき私の臉には、灰色の霧に消え去る船体の後尾にはためく日章旗と、それにだぶって開拓地で日夜奮闘する南米移住者の家族の姿がはっきりとやきつけられたのです。故郷を離れて異郷の地で生活する人々へ

のこころのアフターケア、その使命を「アンデスの声」はになわされているのだ。そのおもいが強く湧き上がってきたのを思い出します。私のセンチメンタル・ジャーニー「飛鳥ツアー」の案内役をしてくださった横浜の齊藤淳一さん、どうもありがとうございました。なお、2004年の「飛鳥」の旅は壮大な南極・南米ワールドクルーズから始まります。南米大陸西岸を南下してドレーク海峡を越えて南極海を体験するのは日本客船としては初めての試みとして期待されています。

ここで大阪在住の小路山順史さんからといたばかりのお便りをご紹介します。

”ブラジルへ行きサンパウロ州を一人旅してきました。グアラサイという町で新生農場に泊まりました。若い人たちはみんな出ていってしまい、さびれた農場でしたが、建物も昔の日本の家屋のようで懐かしい雰囲気でした。そこで朝ご飯をいただいた後、みなさんとかまどの火に手をかざして立ち話をしていました。ふと思い出して「アンデスの声って放送聞いてませんか？」と言ったら、「尾崎先生、懐かしいです。息子さんの道夫さんも音楽やったりしていましたね」って返ってきました。特に宮崎花江さんという方がよくお便りを出しておられたそうで、「また尾崎先生に連絡されることがありましたらよろしくお伝えください」と別れ際にぎゅっと手を握りしめられました。サンパウロ市内には日系の方が多く、田舎へ行くとさらにたくさん日系の方がおられ、本当にみなさん素朴なこころの暖かい方ばかりで、昔懐かしい「日本」がそこにはありました。サンパウロでたまたま出会った日系のみなさんも通りががりに話しただけなのに日本から旅行できたと聞くとコーヒ - をご馳走してくれたり、人の温かさに触れることが多い旅となりました。”

シカゴからのインターネット放送も準備がすすんでいます。この夏、井田昌之教授(青山学院大学院)にシカゴに出張していただき、新品のデスクトップ・コンピューターのシステム設定をしていただきました。私も再三ご多忙な先生の自宅にもお邪魔して新しいホーム・ページの作成や実際応用面でのご指導をあおいでいます。完成まではもう一歩というところですが、フォーラム欄は現在テスト中なので遠慮なくご参加ください。では次号まで。

H C J B 日本語放送担当

在 住 尾 崎 一 夫 久 子

【お知らせ】

Microsoft Outlook Express 6 SP1 をお使いの方へ

このメールマガジンを Microsoft Outlook Express 6 SP1 で受信されている方で、受信設定を「[メッセージはすべてテキスト形式で読み取る](#)」に設定してご利用の場合、画像ファイルなど一部の添付ファイルを開こうとすると、以下のエラーメッセージが表示され、添付ファイルを開くことができない場合があります。

「次の添付ファイルは安全でないため、メールからのアクセスが削除されました。[ファイル名]」

この現象は Outlook Express 6 SP1 の既定仕様であり、このメールマガジンがウイルスに感染していることを示しているものではありません。

以下に記述する設定変更で、添付ファイルを開いたり、ディスクに保存できるようになります。

1. Outlook Express を起動します。
2. [ツール] メニューから [オプション] を選択します。
3. [セキュリティ] タブをクリックして、[ウイルス防止] の下にある [ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない] チェックボックスをオフにして、[OK] をクリックします。

詳細に関しては、Microsoft 社が提供している以下の「マイクロソフト サポート技術情報」をご参照ください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja:329570>

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ (<http://www.hcjb.org/japanese/>) にリスナーコミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」 (<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>) と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」 (<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>) のページが加わりました。ホームページは引き続き更新作業中のため、まだ不備な点もありますが、皆様のご利用をお待ちしています。

メール・アドレスが替わりました！

オフィスの移転に伴い、HCJB日本語放送宛のメール・アドレスも替わりました。

新アドレス: kozaki@hcjb.org

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、**Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。**ご面倒ですが、[HCJB日本語放送](#)まで別途メールにてお知らせください。

配信の停止 (**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

配信変更先のメールアドレス
(**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

新規登録するメールアドレス

この内容で送信する

リセットする

お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
このメールマガジンはコンテンツが大きいので、携帯電話への配信はできません。



Copyright © 2003 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Birkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.